

こどもにやさしいまちづくりアンケート調査等の結果報告（考察）

< 家庭や親（保護者）について >

家庭や親（保護者）のあり方は、心身の成長や人格形成など、こどもの育ちに大きな影響を与えるとともに、家庭はこどもにとって育ちの基盤となる居場所となります。また、こどもは、家庭において親（保護者）の愛情を受ける中で、自分が守られ、大切にされているという安心感や自己肯定感を育んでいくことができます。

アンケート調査等の結果をみると、こどもは年齢が上がるにつれて、親と話をする時間が減少したり、一緒に夕食を食べる機会が減少したり、自己肯定感が低下するなどといった傾向が見られます。この背景としては、核家族化や共働き家庭の増加に加え、こども自身も習い事で忙しく、家族で過ごす時間が減少してきていることが考えられます。

このため、こどもにとって家庭が自分らしく過ごせる心地良い居場所となるよう、また、こどもが心身ともに豊かに成長でき、自己肯定感が育まれるような家庭環境を作っていくことが求められています。

< こどもの遊び場について >

アンケート調査等の結果をみると、こどもたちは、思い切り遊べる広い公園や広場を重要な遊び場として考えていることが分かります。

現在、市内の公園では安全面や地域住民からの苦情等により、野球やサッカーなどのボールを使った遊びが一律に禁止されています。こどもが公園で自由に遊べず、放課後の小学校の校庭も使用できないとなると、こどもは遊び場を失い、近年指摘されているこどもの体力や運動能力の低下にさらに拍車をかけることとなります。

全ての公園で自由に好きなことができることがこどもにとって理想なことです。体格や体力に差があるこどもが一つの公園で同時に遊ぶことは安全面で問題があります。そこで、時間帯で区切る、年齢や利用方法に応じてゾーニングする、公園ごとに棲み分けをするなど様々な方法が考えられますが、どれをとっても地域住民の理解は不可欠となります。公園利用のルール作りをするとともに、地域住民の理解をどのように促していくかが重要になってくると思われます。

< 地域や大人について >

こどもが豊かな人間性や社会性を育む場として、家庭の他に、集団生活や学習等の活動を通じて生きる力を身に付けることができる学校等の役割が重要となりますが、こどもは将来を担う社会の宝として、地域住民の担う役割も重要となります。

こどもは生まれ育った地域社会、地域の人々から、様々な影響を受けて成長します。地域の大人が、地域や社会のルールをしっかりとこどもに教え、大人自身がルールを守る態度を示していくことが重要であり、地域の人々が互いに思いやり、人権を大切にしながら地域の絆を深め、こどもをしっかりと見守っていく必要があります。

アンケート調査等の結果では、地域の人々が登下校時に交通安全の見守りをしてくれたり、声掛けをしてくれたりすることによって、こどもたちは地域の見守りを身近に

感じていることが分かりました。その一方で、子どもたちは大人に対して、手本を見せて欲しい、社会のルールを守るなど大人自身きちんとして欲しいといった回答も多くありました。

大人自身、地域社会がこどもの豊かな人間性や社会性を育む場であることを改めて認識した上で、子どもと積極的に関わり、こどもの手本として温かく見守っていくことが必要であると考えられます。

<こどもたちの相談について>

アンケート調査結果をみると、こどもたちの相談先として、親（保護者）、友だちや担任の先生などの普段よく接する身近な人が多く挙げられています。また、インターネット掲示板で相談をするというこどももあり、手軽に匿名で相談できる相談先も重要な相談先の一つとなっています。その一方で、全体のこどもの約2割は、悩みや不安があっても誰にも、どこにも相談できていない状況にあります。

こどもたちにとって、相談先や相談手段の選択肢が多ければ多いほど、より自分に合った方法で相談をすることができるようになります。相談機関の周知やこどもたちにとって信頼できる相談環境を整備していくことが必要とされていると考えられます。

<こどもたちの体力について>

スポーツ庁が実施した「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によると、特に小学生男子の体力合計点が下がっており、平成20年度の調査開始以降、過去最低の数値となっています。本市においても例外ではなく、小学生女子を除き体力の低下が見られます。この背景としては、暮らしや生活環境が便利になり運動する機会が減少したことや、スポーツや外で遊ぶために必要な時間や遊べる場所が少なくなったことなど様々な要因が考えられます。

体力・運動能力を高めていくには、こどもたちが体を動かす楽しさや心地よさを実感することが重要となりますが、思い切り走ったり、キャッチボールをしたりできる場所は多くありません。前述したように、こどもにとって公園は重要な遊び場として位置付けられていることから、地域において公園のあり方を見直すなど、こどもが思い切り遊べる環境を整えていくことが求められています。

また、こどもたちの体力に関連するものとして、食育の重要性が挙げられます。

偏食や朝食の欠食等の食習慣の乱れは、体力や運動能力の低下だけでなく、気力の低下、感情コントロールの低下にも関係していると言われています。また、食は栄養の摂取という面にとどまらず、食を通して、人間性を形成したり、家族とのコミュニケーションを図ったりするものでもあるため、こどもたちの心身の健全な育成に不可欠なものです。

福祉総合支援チームで実施した第2期ふじみ野市子ども未来応援プランにおけるアンケート調査によると、朝食を「ほとんど食べない」と回答した小学校5年生が2.2%、中学校2年生が2.6%という結果がでています。

こどもたちが健全な食生活に必要な知識や判断力を身に付けるとともに、食を通して豊かな人間性を育むことができるように、子育てをしている家庭、学校及び地域において、食育を推進する体制を確保する必要があると考えられます。